

山田洋次さんの激励に感謝して

劇団「花時計」 代表 平内秀信

私が高校生の時に観た映画「なつかしい風来坊」。もちろん山田さんの監督作品です。「ああ、いい映画だなあ……」

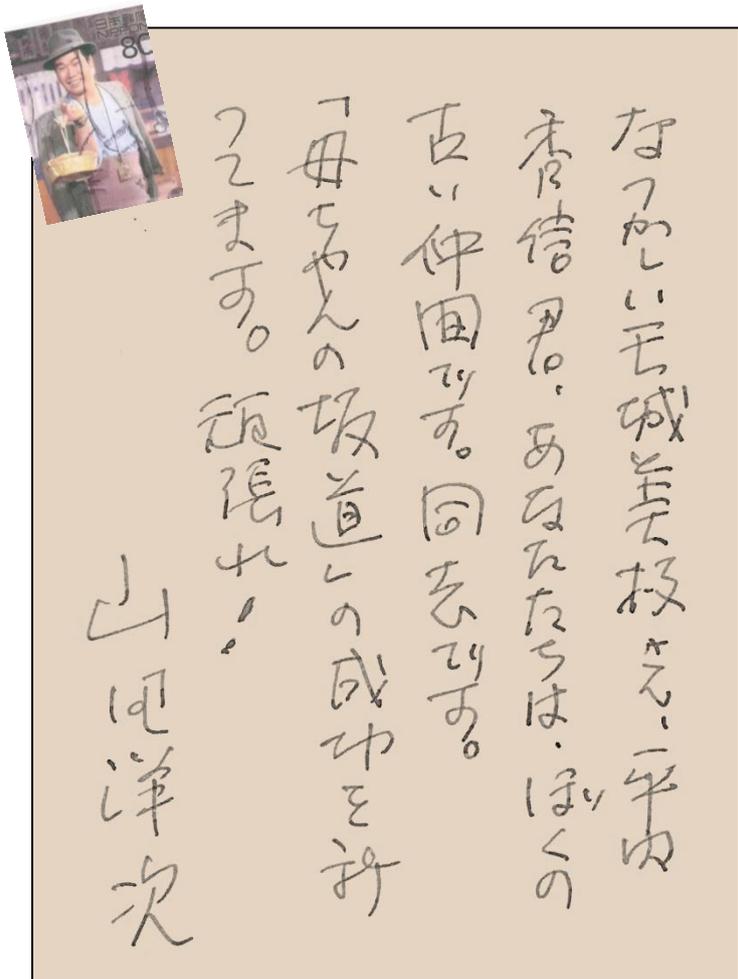
と、少年の頃から映画狂で、映画や芝居に興味をもっていった私は大きなエールをもらった気分でした。「やっぱり東京だ！」背中を押してもらった私は北海道の釧路から荒波越えて、ネオンの海の大都会へ。そして仲間と芝居をやっていた私が、

劇団「花時計」 天城美枝

山田洋次監督の「同胞」や「寅さん」の映画に出演させていただいたのはもうかなり遠い昔になりました。撮影の最中に、若さパンパンの頃の私を見かけた渥美さんに「りっぱな身体ですね」と声をかけられました。普通なら「わっ恥ずかしい！」と思うところ「僕なんか・・」とちよっぴり病いがちなご自分と比べてうらやましいような響きに、渥美さんの優しさを感じたこと思い出されます。その渥美さんも、

20歳の時に入った劇団（統一劇場）がまさか山田さんと交流があるうとは、

びっくり仰天有頂天！おまけに松竹映画「同胞」や「寅さん」のシリーズに何回か私たちの劇団員も出演させてもらったたり、感動の日々でございました。渥美清さんや倍賞千恵子さんと同じ空気のの中に身をおいている幸せ、今でも



一緒にいたスタッフの皆さんの何人か、そして元ふるきやらの三越劇場公演の実現に尽力してくださったおぼちゃん役の三崎さん、何人の方が遠い世界に行ってしまったって、時代が変わっていくのを身に染みて感じているこの頃で

その光景はあざやかに思い出されます。山田洋次さんの激励と期待に応えられるように、「母ちゃんの坂道」の稽古を積み重ねてきましたが、はてさて本番は？

まあ、いつもどおり観客のみなさんといっしょに楽しい舞台を始めたいと思います。さあ、幕が上がるようございませう。

今、北海道の自宅にいます。花時計の皆さん、風邪などひかないように頑張ってください。

倍賞千恵子

す。が、やっぱり人々の中でほんのちよっつでも心の安らぎになるようなお芝居を続けたいという思いが集まって、昔の仲間中心に「花時計」の舞台をつづけています。まだ手探りの舞台づくり、大学生か

らシニア、今回は小学生2名も集まって稽古を重ねています。毎回新しく挑戦する作品は毎回、平内さんのオリジナル、貴重な仲間たちの持ち寄りの情熱が皆さんの応援で花開く日を確信しています